

## 2 マウスモデルにおける 接触皮膚炎の性差

The influence of sex difference on mouse contact hypersensitivity

本田哲也

HONDA Tetsuya

京都大学医学部 AK プロジェクト特定准教授 (皮膚科兼任)

### Summary

エストロゲン、プロゲステロンといった女性ホルモンの受容体は、多くの免疫細胞に発現する。また、女性ホルモンの変動に伴い症状の増悪や改善を呈する皮膚疾患は多く存在し、女性ホルモンの免疫機能を調節している可能性が古くから示唆されている。遅延型過敏反応の一種である接触皮膚炎においても、女性ホルモンの症状の程度に関与している可能性が示唆されている。しかし、その関与の程度や詳細な作用メカニズムは不明な点が多く、今後のさらなる解析が必要である。

#### エストロゲン

女性ホルモンの一種で、卵巣、副腎皮質、胎盤(妊娠期)など複数の臓器から産生される。その受容体は核内に存在し、排卵制御、子宮内膜増殖制御、脂質代謝制御など多彩な生理機能をもつことが知られている。一般に月経周期 12~13 日目頃にピークを迎え、下垂体からの卵巣刺激ホルモン、黄体形成ホルモンなどの分泌を促進し、排卵を誘導する。

#### プロゲステロン

女性ホルモンの一種。卵巣の黄体、妊娠期の胎盤から分泌される。受容体は細胞内や核内に存在するものと、細胞膜に存在するものとに分けられる。月経後半、妊娠期に高値となり、子宮内膜環境の安定に重要な役割を果たす。

#### KEY WORDS

接触皮膚炎 / 接触過敏反応 / エストロゲン / プロゲステロン / 女性ホルモン